

「原爆文学研究」投稿規定

一、原爆文学研究会の機関誌として会員からの意欲的な投稿を歓迎します。会員以外の原稿掲載については編集委員会で判断します。

二、投稿に際しては、住所・電話番号を明記の上お送り下さい。原稿は返却いたしませんので、お手元に控えをお残し下さい。

三、パソコン等を使用の場合はプリントアウト原稿にデータファイルを添付の上お送り下さい。

四、原稿は、新字のあるものはなるべく新字を用い、注の形式等は既刊のものに準拠してください。

五、投稿者は各自の原稿一頁（機関誌の書式）につき一〇〇〇円を発行経費として負担することをお願い承下さい。

六、次号（18号）の締切は、二〇一九年九月三〇日です。

「原爆文学研究」編集委員

岡村幸宣 川口隆行 楠田剛士（副編集長）
坂口博 中野和典 長野秀樹 野坂昭雄
村上陽子 山本昭宏（編集長） 李文茹

編集後記 今号には三つの特集に加え、資料紹介、連載企画「原爆と「ひと」」、そして詩を掲載しています。

特集「『原爆』を読む文化事典」を読むのは、昨年二月に開催した刊行記念ワークショップ

プでの議論を誌面化したものです。また、特集「炭鉱と原爆の記憶——文化運動・被爆朝鮮人・遺構から考える」は、今年七月の研究会のワークショップを誌面化しました。さらに、「他者と共同性——戦後日本のスピリチュアリティ表象」は、会員の柳瀬善治氏による企画。三つの特集が並び、読み応えのある内容になつていると思います。

今年嬉しいニュースもありました。前号で特集した、四國五郎『わが青春の記録』（全二巻、解説 有光健・川口隆行・四國光、三人社）が、第4回「シベリア抑留記録・文化賞」を受賞したのです。出版に関わった関係者各位の熱意と努力に敬意を表したいと思います。

加えて、これも嬉しいお知らせですが、本誌にたびたび詩を投稿してくださっている高野吾朗氏が、二〇一九年初旬に初めての日本語詩集を刊行されます。詩集のタイトルは『日曜日の心中』。出版社は福岡・天神にある「花乱社」です。

さて、今号からは、新たな企画がスタートしました。「原爆とひと」というコーナーです。ここでは、これまで知られてこなかった、原爆とある人物との関わりを紹介したり、原爆との関わりがすでに知られている人について新たな情報を紹介したりする文章を掲載します。論文ではないので、長さは短くてもかまいません。ぜひご自身の関心を紹介するつもりでご投稿ください。（山本昭宏）

原爆文学研究

17

二〇一八年二月二日発行

編集 原爆文学研究会

八四〇六〇

福岡市城南区七隈八一一九一

福岡大学人文学部

中野和典研究室気付

発行

（有）花書院

八〇〇〇三

福岡市中央区白金二一九一二

TEL 九三五〇〇六七

FAX 九三五四四四二

定価 一、二〇〇円（本体一、一〇〇円）

◇書店にない場合は、「地方小出版流通センター扱い」とご指定の上、書店にご注文下さい。

◇継続購読は、花書院「原爆文学研究係」にお申し込み下さい。送料は無料となります。